●特集● *Headline*
北陸新幹線 ····· P9

KAWADA REPORT

写真：次世代産業用ロボット

KAWADA technologies

第7期 株主通信

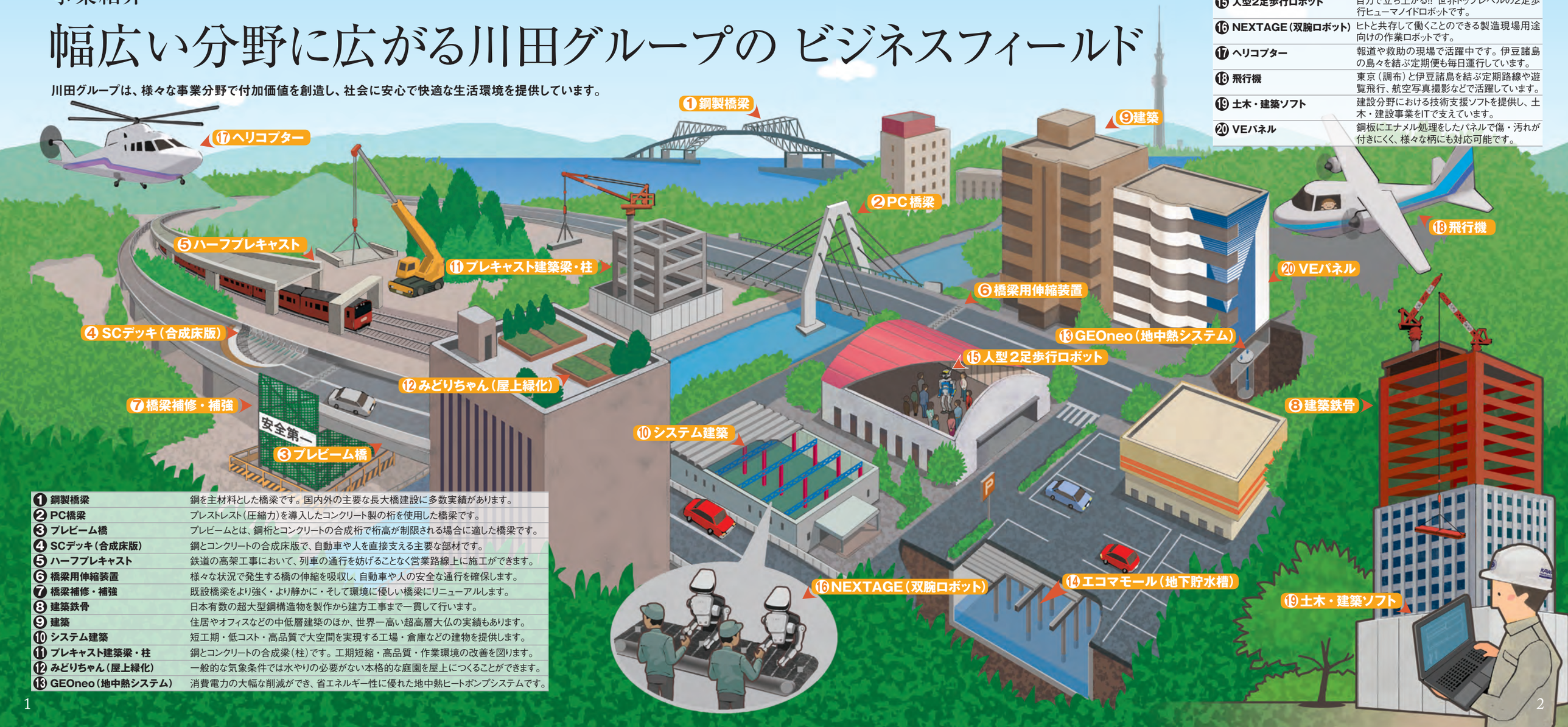
2014年4月1日 >>> 2015年3月31日

証券コード：3443

事業紹介

幅広い分野に広がる川田グループの ビジネスフィールド

川田グループは、様々な事業分野で付加価値を創造し、社会に安心で快適な生活環境を提供しています。



① 鋼製橋梁	鋼を主材料とした橋梁です。国内外の主要な長大橋建設に多数実績があります。
② PC橋梁	プレストレスト（圧縮力）を導入したコンクリート製の桁を使用した橋梁です。
③ プレビーム橋	プレビームとは、鋼桁とコンクリートの合成桁で桁高が制限される場合に適した橋梁です。
④ SCデッキ（合成床版）	鋼とコンクリートの合成床版で、自動車や人を直接支える主要な部材です。
⑤ ハーフプレキャスト	鉄道の高架工事において、列車の通行を妨げることなく営業路線上に施工ができます。
⑥ 橋梁用伸縮装置	様々な状況で発生する橋の伸縮を吸収し、自動車や人の安全な通行を確保します。
⑦ 橋梁補修・補強	既設橋梁をより強く・より静かに・そして環境に優しい橋梁にリニューアルします。
⑧ 建築鉄骨	日本有数の超大型鋼構造物を製作から建方工事まで一貫して行います。
⑨ 建築	住居やオフィスなどの中低層建築のほか、世界一高い超高層大仏の実績もあります。
⑩ システム建築	短工期・低コスト・高品質で大空間を実現する工場・倉庫などの建物を提供します。
⑪ プレキャスト建築梁・柱	鋼とコンクリートの合成梁（柱）です。工期短縮・高品質・作業環境の改善を図ります。
⑫ みどりちゃん（屋上緑化）	一般的な気象条件では水やりの必要がない本格的な庭園を屋上につくることができます。
⑬ GEOneo（地中熱システム）	消費電力の大幅な削減ができ、省エネルギー性に優れた地中熱ヒートポンプシステムです。
⑭ エコマモール（地下貯水槽）	雨水を一時的に地下に貯留することで、都市環境や人々の生活を水害から守ります。
⑮ 人型2足歩行ロボット	自力で立ち上がる!! 世界トップレベルの2足歩行ヒューマノイドロボットです。
⑯ NEXTAGE（双腕ロボット）	ヒトと共存して働くことのできる製造現場用途向けの作業ロボットです。
⑰ ヘリコプター	報道や救助の現場で活躍中です。伊豆諸島の島々を結ぶ定期便も毎日運行しています。
⑱ 飛行機	東京（調布）と伊豆諸島を結ぶ定期路線や遊覧飛行、航空写真撮影などで活躍しています。
⑲ 土木・建築ソフト	建設分野における技術支援ソフトを提供し、土木・建設事業をITで支えています。
⑳ VEパネル	鋼板にエナメル処理をしたパネルで傷・汚れが付きにくく、様々な柄にも対応可能です。

2022年に向けて「あるべき姿」を実現し、未来を見据えて前進していきます。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

当期（2015年3月期）は、民間建築を中心とする発注量の増加を背景に、受注を拡大し、売上高・利益ともに計画を上回ることができました。

ここではインタビューを通じ、当期の営業状況および今後の展開についてご説明させていただきます。ご一読のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長
川田忠裕

Q 当期（2015年3月期）の営業状況をお聞かせください。

A 事業環境の回復が続く中、売上高は1,000億円を突破。

当期の事業環境は国内企業の投資マインドの改善を背景に回復基調が続き、民間建築の伸びを中心に、発注量が増加した1年でした。その中で当社グループにおいては、全体の受注高が1,105億円（前期比6.0%増）、売上高は2010年3月期以来5期ぶりの1,000億円突破となる1,040億円（同14.6%増）を確保し、利益面では前期を下回りましたが、計画は上回ることができました。

主力の鉄構セグメントは、公共工事において業界トップレベルの受注量を獲得し、民間鉄骨も受注を大きく伸ばしました。工場の生産状況も高水準で推移し、特に昨年末から今春にかけてフル稼働が続きましたが、利益については労務・資機材費の高騰の影響により、減益となりました。

土木セグメントは、PC橋の受注量が前期よりも減少しましたが、原価低減と設計変更金額の獲得に努めた結果、大幅な利益改善を果たしました。

建築セグメントは、倉庫・工場などを中心とするシステム建築の受注が増加したことに加え、1件当たりの受注金額が増加したことにより、施工効率が改善したことで収益率が改善し、大幅な増益となりました。

また当期は、事業多角化の一環として進めてきた航空機使用事業や橋梁関連製品の販売が好調に推移し、ロボット事業も伸びたことにより、業績に寄与しました。

Q 今期（2016年3月期）の見通しはいかがですか?

A 厳しい営業状況を前提に減収を予想。品質面の満足度を追求し、評価・信頼を向上。

今期の事業環境は、公共工事が堅調に推移し、民間建築も引き続き高水準を維持していくと見ています。しかしながら当社グループにおいては、橋梁事業において、受注競争が益々熾烈となっていることや鉄骨事業において首都圏を中心とした超高層ビル鉄骨の発注が端境期にあたることから今期においては低水準の生産を余儀なくされると見込まれ、厳しい営業状況が予想されます。

そうした中で当社グループは、より安定した企業経営を目指し、採算性を重視した受注獲得に努めるとともに、品質面でのお客様満足を追求し、「川田ブランド」への評価・信頼を高めてまいります。また、老朽化したインフラの保全・改修ニーズへの対応や、従来の柱である橋梁事業に代わる新たなニーズの開拓・獲得に力を入れていく考えです。

以上を踏まえ、今期の連結業績については、売上高1,000億円、営業利益25億円、経常利益21億円、当期純利益17億円を見込んでいます。

Q 将来に向けた取り組みについてご説明願います。

A 東京五輪開催後の持続的成長を見据え、3つの重点テーマに基づく取り組みを推進。

当社グループは、東京オリンピック・パラリンピック開催から2年後の2022年に創業100周年を迎えます。五輪開催に向けた需要拡大後も成長を持続できるよう、私たちは3つの重点テーマに基づく取り組みを進めています。

その1つめは、既存事業における利益体質の確立です。2つめは、海外事業の展開や環境関連事業、産業用ロボット事業など将来の成長分野への先行投資です。特に海外事業の展開については、日本で培ってきた技術を東南アジアなどグローバルな市場で活かすべく、ローカル企業との提携を含め着実に進めていきます。そして3つめは最も重要な取り組みですが、お客様やユーザー、取引先など、当社グループの事業にかかわる全ての方々に信頼され、社員が誇りを持てる企業づくりです。

私たちは、これらを2022年の「あるべき姿」として実現し、その先の未来における発展を切り拓いていきます。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 引き続き安定配当を維持しつつ、業績の向上に努め、利益還元水準の回復へ。

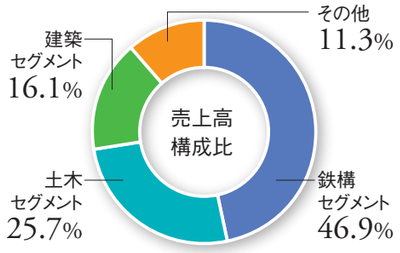
今回の期末配当は、前期同額の1株当たり30円とさせていただきました。引き続き安定配当を維持しつつ、業績の向上に努め、株主の皆様に満足していただける利益還元水準への回復を目指してまいります。

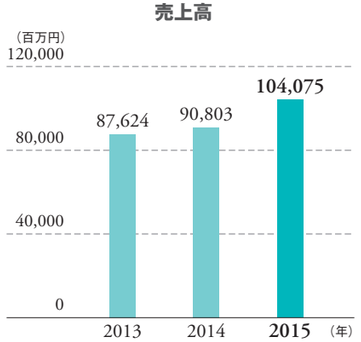
なお当社グループでは、昨今のコーポレートガバナンス強化の流れに対応し、当社および川田工業株式会社において、それぞれ1名の社外取締役を選任しました。こうした外部の視点による経営チェック機能の強化に加え、グループ全体にコンプライアンスに関する理解を深め、浸透させるための取り組みを推進していく所存です。

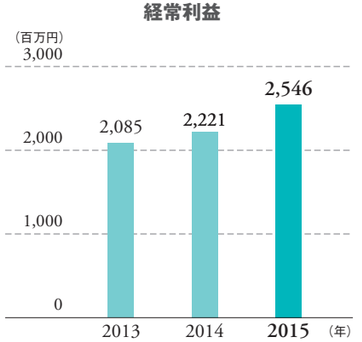
株主の皆様におかれましては、当社グループが営んでいる幅広い事業分野を理解していただくとともに新たな可能性への挑戦による価値創造にご期待いただき、今後とも継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

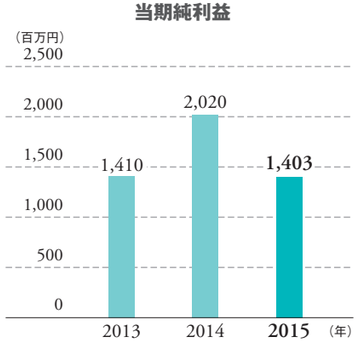
当期の決算ポイント

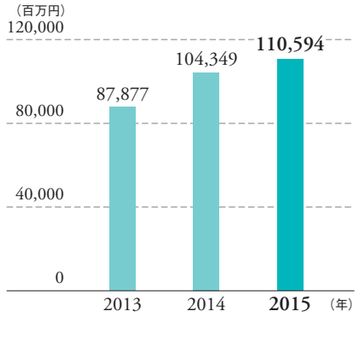
- 鉄構・建築セグメントの堅調推移により、売上高は増加
- 建築セグメントの採算性が改善し、利益が向上
- 鉄構セグメントの回復により、受注高は増加
- 1株当たり30円の期末配当

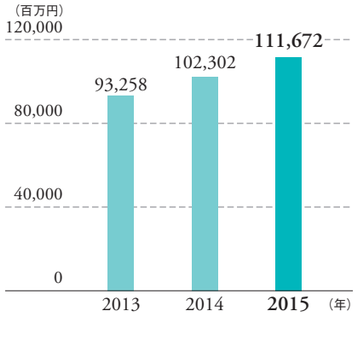


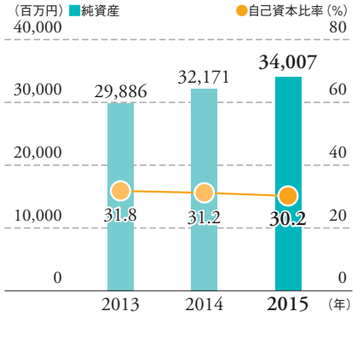






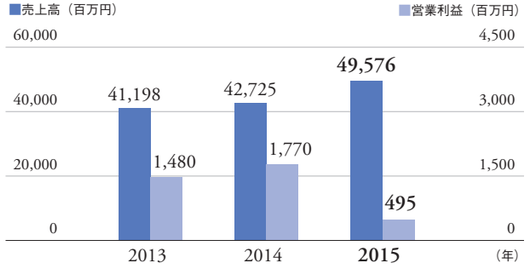


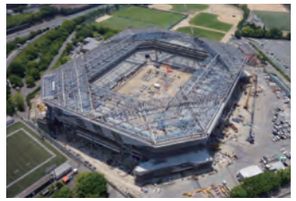




鉄構セグメント

売上高	49,576百万円
営業利益	495百万円



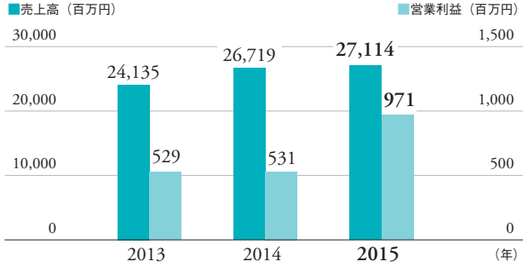

（仮称）吹田市立スタジアム建設事業（大阪府）

橋梁事業においては繰越工事が下支えとなり、鉄骨事業においては首都圏を中心とした工事の進捗が順調に推移したことにより、売上高は49,576百万円（前期比16.0%増）と前期を大幅に上回りました。損益面では、橋梁事業において、過去に受注した採算性の低い工事の進捗や労務・資機材費の高騰で採算が悪化したことに加え、設計変更金額の獲得が翌年度にずれ込んだ結果、営業利益は495百万円（同72.0%減）となりました。

主な連結子会社：川田工業株式会社

土木セグメント

売上高	27,114百万円
営業利益	971百万円



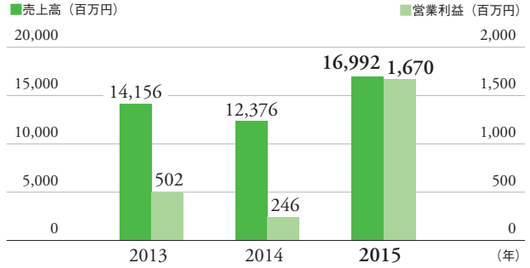
大和御所道路蛇穴1号橋PC上部工事（奈良県）

売上高は繰越工事が下支えとなり、27,114百万円（前期比1.5%増）と前期を若干上回りました。損益面では、原価の低減と設計変更金額の獲得を継続的に取り組んだ結果、営業利益は971百万円（同82.7%増）と大幅な増益となりました。

主な連結子会社：川田建設株式会社

建築セグメント

売上高	16,992百万円
営業利益	1,670百万円



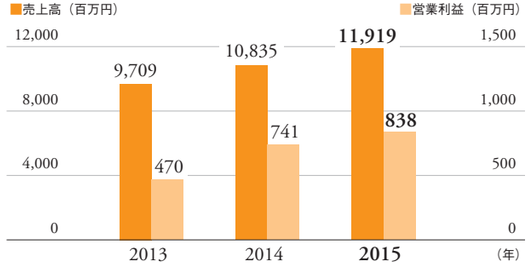
川崎臨港倉庫埠頭㈱新倉庫・事務所新築工事（神奈川県）

倉庫・工場などの民間設備投資の需要が堅調に推移し、システム建築を中心に受注高が増加したことにより、売上高は16,992百万円（前期比37.3%増）と前期を大きく上回りました。損益面では、1件当たりの受注金額が増加したことにより、施工効率が改善したことで収益率が改善し、営業利益は1,670百万円（同576.3%増）と大幅な増益となりました。

主な連結子会社：川田工業株式会社

その他

売上高	11,919百万円
営業利益	838百万円



「調布～三宅島」新規路線就航開始（新中央航空株式会社）

航空機使用事業における業容の拡大などにより、売上高は11,919百万円（前期比10.0%増）と前期を上回りました。損益面では、営業利益は838百万円（同13.0%増）となりました。

主な連結子会社：川田テクノシステム株式会社
株式会社橋梁メンテナンス
東邦航空株式会社
新中央航空株式会社
カワダロボティクス株式会社

（注）P7–8のセグメント業績につきましては、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております。

特集

北陸新幹線

東京と金沢を結ぶ北陸新幹線が2015年3月14日に開業しました。
東京ー金沢間の所要時間が、従来の3時間47分から
最速2時間28分へと短縮されます。
開業により人の流れが大きく変わることが予想され、
北陸地方の観光振興などへの期待も高まっています。
今回は、川田工業株式会社と川田建設株式会社が手掛けた
北陸新幹線の工事実績をご紹介します。

❽富山五本榎橋りょう外12箇所（PCけた）他

❾富山鍋田橋りょう外11箇所（PCけた）

❼高岡下黒田高架橋

❶白山車両基地

川田工業

❶白山車両基地
（石川県白山市）
工事期間：2012年2月～2014年1月

川田建設

❷折違Bv外2Cp他
（石川県金沢市）
工事期間：2000年3月～2001年3月

❸弥勒Bv外1Cp製架他
（石川県金沢市）
工事期間：2002年3月～2004年9月

❹黒瀬川橋りょう外8箇所（PCけた）
（富山県黒部市）
工事期間：2007年10月～2010年2月

❺高岡諏訪佐野高架橋
（富山県高岡市）
工事期間：2009年5月～2012年2月

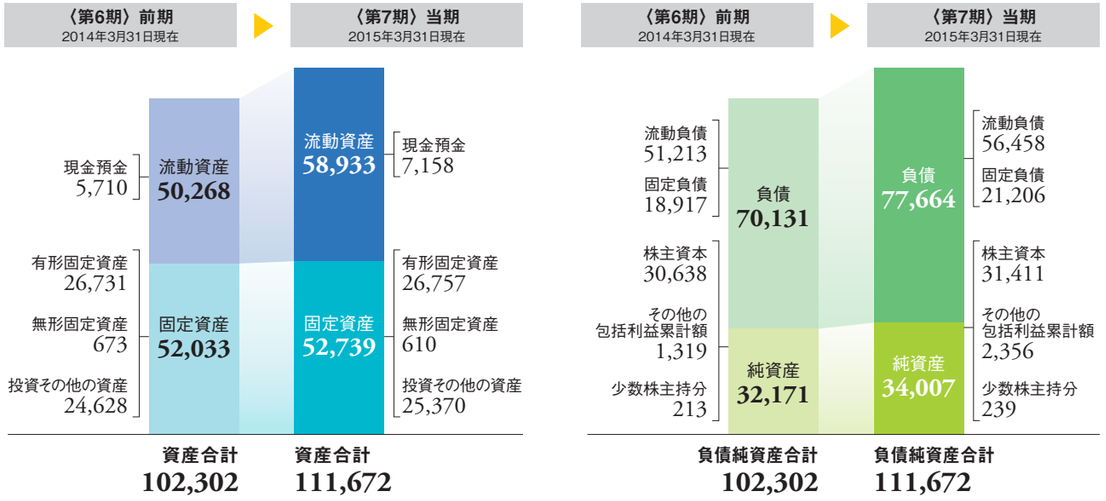
❻滑川上梅沢橋りょう外12箇所（PCけた）
（富山県滑川市）
工事期間：2009年10月～2011年11月

❼高岡下黒田高架橋
（富山県高岡市）
工事期間：2010年1月～2012年12月

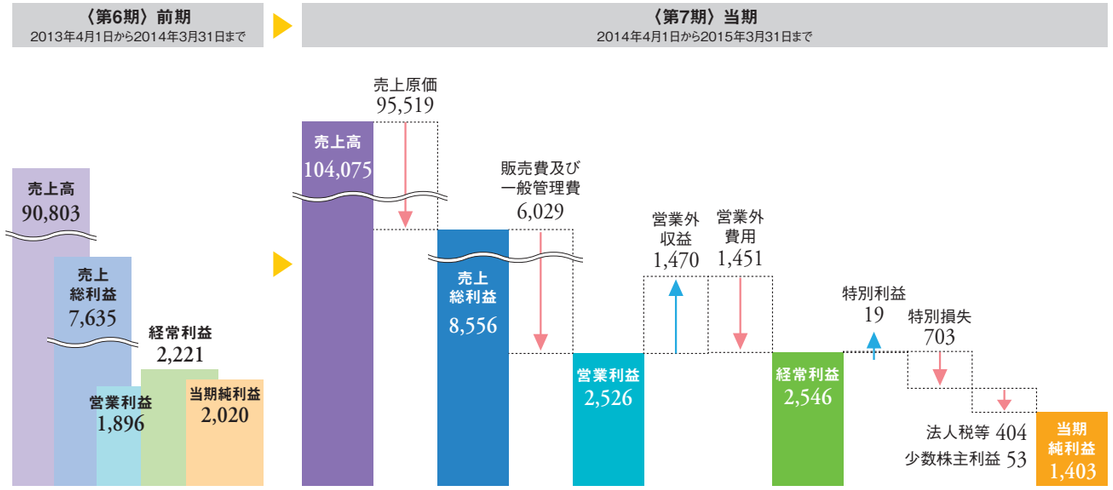
❽富山五本榎橋りょう外12箇所（PCけた）他
（富山県富山市）
工事期間：2010年12月～2012年11月

❾富山鍋田橋りょう外11箇所（PCけた）
（富山県富山市）
工事期間：2010年12月～ 2012年12月

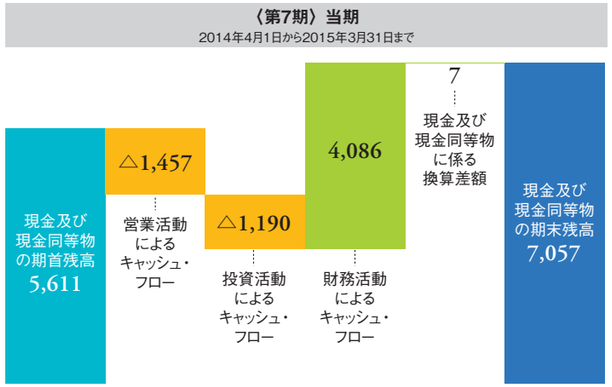
連結貸借対照表の概要 （単位：百万円）



連結損益計算書の概要 （単位：百万円）



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 （単位：百万円）



（注）△印は、マイナスを示しています。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

1,457百万円の資金減少（前連結会計年度は425百万円の資金減少）となりました。これは主に、完成工事未収入金の増加によるものであります。

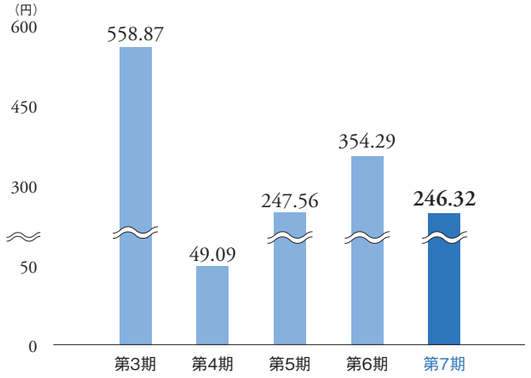
● 投資活動によるキャッシュ・フロー

1,190百万円の資金減少（前連結会計年度は2,154百万円の資金減少）となりました。これは主に、設備投資による固定資産の取得等によるものであります。

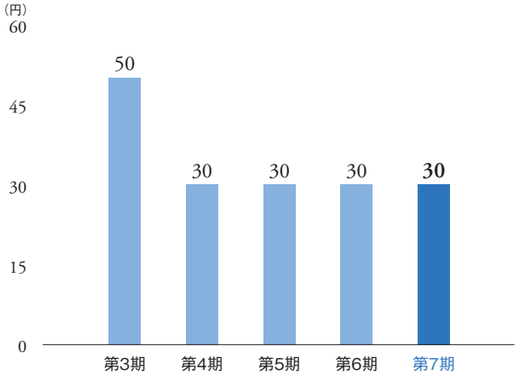
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

4,086百万円の資金増加（前連結会計年度は1,599百万円の資金増加）となりました。これは主に、借入金の借入及び社債の発行によるものであります。

1株当たり当期純利益



配当



会社の概要 Corporate Profile

会社の概要 (2015年3月31日現在)

商号	川田テクノロジーズ株式会社 KAWADA TECHNOLOGIES, INC.
事業内容	鋼製・PC橋梁及び建築鉄骨の設計・製作・架設・据付、一般建築・システム建築、土木建設関連ソフトウェア開発を営むグループ企業の経営計画・管理並びにそれらに附帯する業務
設立	2009年2月
所在地	【東京本社】 〒114-8563 東京都北区滝野川一丁目3番11号 TEL：03-3915-7722 【富山本社】 〒939-1593 富山県南砺市苗島4610番地 TEL：0763-22-8822
資本金	50億円
決算期	3月31日
従業員数	52名(連結2,111名)

代表者及び役員 (2015年6月26日定時株主総会終了時点)

代表取締役社長	川田 忠裕	常勤監査役	阿久津政俊
常務取締役	渡邉 敏	監査役	新開 正志
常務取締役	越後 滋	監査役(社外)	高木 武彦
取締役	山本 隆夫	監査役(社外)	髙木 繁雄
取締役	川田 忠樹		
取締役(社外)	山川 隆久		

川田グループの全体像

(2015年6月26日現在)

株式の状況/株主メモ Stock Information

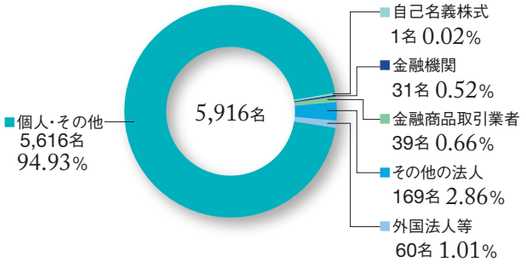
株式の状況 (2015年3月31日現在)

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	5,781,070株
株主数	5,916名
大株主	

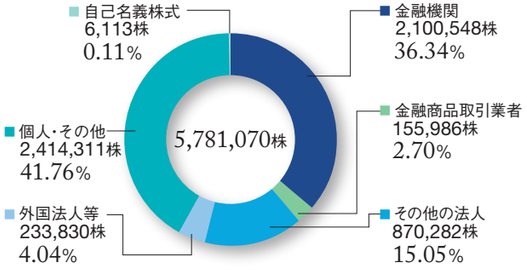
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	686	11.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	312	5.41
川田テクノロジーズ社員持株会	287	4.98
株式会社北陸銀行	284	4.93
株式会社三菱東京UFJ銀行	265	4.60
川田工業協力会持株会	193	3.34
富士前商事株式会社	141	2.46
川田忠樹	125	2.17
三菱UFJ信託銀行株式会社	100	1.73
新日鐵住金株式会社	93	1.62

※持株比率は自己株式(6,113株)を控除して計算しております。

株主数構成比



株式数構成比



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711(フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL　http://www.kawada.jp (ただし、電子公告によることができない事故、そのほかのやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求そのほか各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。